

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室 1・2」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
そだちの丘 育ちサポート係 TEL 30-4410 FAX 30-4433 E-mail: sodachi.sec@matsusaka.ed.jp

映画「チア★ダン」のモデル校から 学ぶこと・・・

今春、広瀬すずさん主演の映画「チア★ダン」が上映され、好評を博したところで、ご覧になられた方もあろうかと思えます。この映画は、チアダンス全米大会を制覇した福井県立福井商業高校のチアダンス部の活動をモデルに制作されたものです。元々バトン部だったクラブを2006年に、より競技性の高いチアリーダー部に当時の顧問が変えられたようです。全米で優勝できた基には、選手一人ひとりの熱い思いと弛まぬ努力がありました。強くなった秘訣については、「自分にはできると暗示すること」「なりたい自分を鮮やかに想像する」など、具体的な将来像を描くとともに、「夢ノート」と題して、各自が毎日目標を書き記して、目で見て確認できるようにしていることにあります。「足を高くあげる」「3回転ターンを成功させる」など小さな目標から「全米制覇」といった大きな夢まで書き記してある。「できた」ことを確認して、また次の目標に進む。その積み重ねが栄光の獲得につながっていったということです。

具体的な目標を立てて、その目標を1つ1つクリアして、また次の目標に向かって練習を積み重ねていくことの大切さを学ぶことができます。そして、そのことが成功に結び付いていることがわかります。

最初から、実現不可能なハードルの高い目標を設定するのではなく、実現可能な少しだけ上に目標を置き、それにむけて努力していくことは、スポーツだけでなく学習においてもつながるのではないかと考えます。その根っこには、積み重ね「継続は力なり」の精神が、ベースにあったわけですね。

Break Time ♪ ～ チーム 'Team' って何だろう???

何年ぶりか、いや何十年ぶりか、本棚から眠っていた OED(Oxford English Dictionary) を取り出した。備え付けのルーペを取り出して 'team' の語源を調べてみると、Proto-Germanic (※ゲルマン祖語) <紀元前> からきており、pull/draw 「引く、引き出す」とある。それは、two or more animals that work together to pull something、つまり「何かを引くためにともに働く2頭以上の役畜」という意味合いで使われていた。それが、a number of persons associated together in work 「ある目的のため共同して働く人々の集まり」(people でなく、あえて persons を使っている) という意味合いで使われるようになった。つまり、1つの目的を達成するためにともに活動する者の集まりである。これが「チーム」ということのようなのである。また、ある一説には TEAM は、Together Everyone Achievement More の頭文字をとったものだと言われる。「みんなで一緒により多くのことを達成する」という意味だという。

「チーム学校」「チーム〇〇」という言葉がよく使われるこの頃ではあるが、どのような語源から時代を経てこの言葉が今使われているのか、ちょっと調べてみました。

※ゲルマン語派に属するドイツ語、英語、オランダ語などの祖先の言語

(小筆 邦昭)

社会科副読本編集委員会より

○どうぞご活用ください○

社会科副読本編集委員会では、毎年新しい資料を加えたり、データを最新のものに更新したりしています。今年度も引き続き、それぞれの委員の取材をもとに、写真や数値等のデータの更新をしながら、最新の情報を掲載できるようにしたいと考えています。

もし、このホームページを一度もご覧になったことがない方がいらっしゃったら、ぜひ、ご覧ください。小学校 3・4 年生の学習で使えるワークシートや、他の学年や他の教科のさまざまな学習に活用できるページもありますので、ぜひ、社会科副読本『わたしたちの松阪市』を教材としてご活用いただきますようお願いいたします。

※「わたしたちの松阪市」ホームページアドレス (<http://fukudokuhon.jp/>)

～ 編集委員の紹介 ～ < 敬称略 >

委員長	西村 修久 (大河内小)	技術指導	島崎 良
編集委員	松本 吉弘 (花岡小)	編集委員	高橋 淳 (第三小)
編集委員	杉山 達弘 (第四小)	編集委員	山川 高広 (幸小)
編集委員	道端 優也 (伊勢寺小)	編集委員	渡邊 義登 (港小)
編集委員	立岡 一宏 (射和小)	編集委員	菊川 駿 (豊地小)
事務局	木村 弘孝 (子ども支援研究センター)	奥田 健司 (子ども支援研究センター)	

研修講座へのお申し込みありがとうございます！

本年度も研修講座にたくさんのお申し込みをいただきありがとうございます。現在、申し込み可能な講座について、当センターWeb ページに情報を掲載しております。申込書（別紙1）もダウンロードできます。講座3日前まで申し込み可能です。ぜひご活用ください。

☆研修講座の様子をご紹介します

A-1 国語「子どもが自分で読み、考え、伝える姿を確実に

字や言葉、文を理解し、使いこなす国語の力とともに」講師 木村 祐子 先生



第四小学校において、単元を通して学級に入り、4年生の説明文の指導を、師範授業と講義により、わかりやすくご指導いただきました。指導技術はもとより、授業者としての心構えや授業づくりで大切にしていきたいこと、指導者として子どもたちに向き合う姿勢など多くのことを学ばせていただきました。

A-2 算数「思考力・判断力・表現力を育てる算数科の授業づくり」

講師 盛山 隆雄 先生

松江小学校6年生での師範授業、その後講義をしていただきました。見せていただいた授業について、盛山先生の意図や大切にされていること、さらに、うまくいかなかったと先生が感じられた部分を講義の中で聞かせていただき、授業の組み立て、発問、教師の出場等をより具体的に学ぶことができました。

